

めでる



2 特集
令和元年度 夏の宿泊研修 in 東近江市・日野町方面

12 スポットライト
三方よし研究会について
NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」 副理事長 小串 輝男

14 地域自慢
甲賀市水口町貴生川

15 クラウドファンディング

16 紹介
滋賀県医師キャリア・サポートセンター

17 報告
開催報告

19 ご入会・ご寄附のご案内

20 編集後記

Contents

東近江市・日野町方面での

「東近江市・日野町方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、8月19日(月)～20日(火)の2日間の研修を行いました。

太郎坊・阿賀神社

パワースポットでも有名な旧八日市にある太郎坊宮を参拝しました。麓から中腹まではバスで登り、中腹から本殿まで約260段の石段を登りきると蒲生野ののどかな田園風景が一面広がっていました。



日野記念病院

仲院長から病院の概要について説明を受けた後、院内を見学させていただきました。本学OBの安岡医師からもお話をいただき、施設を見学させていただきました。



医療が福祉と3病質の高い地域への貢献が実現した。医療の発展に貢献した。それぞれ役割を担い、地域への貢献が実現した。病院で働くということ。医学科

近江日野商人ふるさと館(旧山中正吉邸)

日野町に残る商人の元本宅を訪れました。この邸宅は江戸時代末期に建てられたもので、ステンドグラスやシャワー室完備の浴槽や昔の電話機など、この時代の商人の暮らしぶりを感じることができました。



日野の郷土料理。こだわりのガラス越しに美しい庭園を眺めながらいただきました。質と量、どちらも120%の贅沢な昼食でしたが、特に気に入ったものは鯛そうめんです。お出汁が甘く、鯛にも染み込んでいて優しい味でした。(医学科第3学年)

クレフィール湖東

〔第1部〕講演会・意見交換会等
・東近江市 小椋正清 氏からご挨拶



- ・永源寺診療所 所長 花戸貴司 氏
 - ・三方よし研究会 副会長 小椋猛 氏
 - ・NPO 法人加楽 理事長 楠神渉 氏
- 「三方よし研究会について」



第1部では、小椋市長からご挨拶いただいた後、三方よし研究会の取組みや地域との連携についてお話をいただきました。第2部では、研修先でお世話になった方々や里親、室員の先生と情報交換を行いました。



百済寺



日登美山荘



雄大な自然や寺社仏閣の深い歴史をお聞きしながら、湖東地域の美味を堪能させていただきました。湖東地域にこのような素晴らしい文化があることを知り、もっと多くの方にこの素晴らしい素朴さを知ってほしいと思いました。(医学科第3学年)

三方よし学会についての話が一番興味深かったです。さまざまな医療職が集まりそれぞれの立場から意見を交わすことで、新たな発見があったり、解決策が見つかる等興味深い活動だなと思いました。(看護学科第2学年)

三方よし研究会のお話を聞き、中でも三方よしでも印象に残っており、「どんなことがあったことから始めよう、走りながら考えよう」「ぐくに見習う」など、長く続けるための工夫がまた、多職種や地域住民も参加できるようにしているということを感じ、地域での取り組みは専門職とうかがう専門的なだけでなく、地域で暮らしている当事者である住民の視点を感じました。(看護学科第2学年)

宿泊研修を実施しました！

日(火)の夏期休暇期間を利用して、宿泊研修を実施しました。

東近江総合医療センター

目片副院長から病院の概要について説明を受けた後、3班に分かれて産科や結核病棟を有する特徴的な病棟、最新設備を備えた内視鏡室、リハビリテーション科の機能訓練室等を順番に案内していただき、病院内の施設見学を行うとともに、本学OBの中島医師や武久看護師等による指導のもと、スキルズラボに設置されている診療系シミュレーター、看護系シミュレーターを用いた院内体験をさせていただきました。



リアルな模型がたくさんあって、心拍の確認や蘇生の体験をさせていただきました。貴重な経験ができてよかったです。(看護学科第1学年)



その病院の役割によって求められる看護師の役割も変わり、今求められる看護の姿の一端を見ることができたと思います。(看護学科第1学年)



医療においては田舎であり、高齢者が多い地域で、連携をとったり、工夫したりと様々なことが考えられて成り立っているのだと知りました。(看護学科第2学年)



かない地域への医療の提供が連携することでより効率的な医療を目指して、地域ならではの工夫された形が見られ、勉強になりました。(看護学科第1学年)

割の異なる病院を訪ね、その役割分担、献の仕方を学ぶこと。特に閉会の3つの総合病院であるが印象に残っています。(看護学科第1学年)

あいとうふくしモール

施設の運営委員会事務局の方から事業開始に至る経緯や運営方法等について説明していただき、施設を見学させていただきました。

近江温泉病院

小山院長から病院の概要について説明いただき、その後、回復期リハビリテーション病棟と認知症患者医療センターを見学させていただきました。



研究会

主方



東近江市では病気の治療だけでなくその後の生活のケアも含めたサポートを様々な人や組織が取り組んでいることを教えてもらい、地域医療という言葉のもつ意味と実践を初めて理解することが出来たと思います。(医学科第4学年)

永源寺診療所

東部出張診療所と永源寺診療所を拠点として地域医療に尽力されている花戸所長に、全国から注目されている永源寺でのチーム医療について詳しく説明していただきました。

病院ごとに様々な役割があることがよく分かりました。その病院の役割によって求められる看護師の役割も変わり、今求められる看護の姿の一端を見ることができたと思います。(看護学科第1学年)

熱意を持って医療に臨み地域住民を支えておられる所長さんの姿に感銘を受けました。(医学科第6学年)

大学病院とは違った役割や長所をもった医療を展開なさっている現状を直に見ることができました。また、多くの病院で大切になさっていた、「患者さんの身近に医療があるべきだ」という考え方は私が将来、医療に携わっていく姿勢としても大切にしていこうと思いました。(看護学科第1学年)



時代に合わせて病院や診療所の役割が変化してきていることや各病院の得意分野を活かして地域全体で連携しあいながら医療を行っていることなどを教えていただきました。(看護学科第2学年)

滋賀県の中でも高齢化が進み、3人に1人が高齢者という永源寺地区ですが、私たちが医師になるころにはこのような光景が当たり前になるとおっしゃる先生の表情に、高齢化の波がすぐそこまで迫ってきていることを切に感じました。それと同時に、そういった高齢化の進んでいる永源寺地区で地域の方と力を合わせて医療を支えておられる様子は大変勉強になりました。(医学科第3学年)



いろいろな施設で活躍されている方々のお話を伺うことで、その地域が必要とする医療のあり方とはどのようなものなのか、またそれを実現するために自分は何ができるか、何をすべきなのか、ということを考えさせられる良い機会となりました。(医学科第6学年)

医療に関しては、地域医療から高度医療まで上手く役割分担を行い地域で完結させていました。それだけでなく、三方よし研究会やチーム永源寺のように、まちぐるみで暮らしを支えていました。この研修で、医療は人々の生活の上になり立っていることを再認識しました。このように、「暮らし」に気づくことができた。(医学科第5学年)

東近江市から、今秋収穫されたばかりの梨をお土産にいただきました。ありがとうございました。



し研究会の流儀がとても時間厳守」「でき良いと思うことは直になされてきました。、専門的になりすぎつくりのために行っ会議をするのではな声を聞くことが大切



東近江市・日野町方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

8月19日(月)・20日(火)に、東近江市・日野町方面を訪問させていただいた夏の宿泊研修には、学生16名（滋賀医科大学医学科第1～6学年6名、看護学科第1～2学年9名、旭川医科大学医学科第5学年1名）が参加しました。

【1日目】

・太郎坊・阿賀神社参拝

旧八日市市にある通称太郎坊宮を訪問しました。太郎坊宮は標高350mの赤神山(太郎坊山)に建つ神社で、大昔から「神様の山」「天狗が住む山」「修験道修行の霊山」とされてきました。麓からは740段余りの階段が連なりますが、中型バスで中腹駐車場まで行き、本殿まで約260段の階段を登りきると蒲生野ののどかな田園風景が一面広がっていました。

また、本殿の前には東近江市指定天然記念物の「夫婦岩」があり、神様のお力によって押し開かれたと云われる大岩がそびえ立ち、この巨岩の間を通る時は心が引き締まり、神秘的な空間を感じることができました。



・近江日野商人ふるさと館(旧山中正吉邸)見学・昼食

日野町に残る商人の元本宅を訪れました。日野町役場の方の説明を受けながら、邸宅を見学しました。この邸宅は江戸時代末期に建てられたもので、土間の奥にはおくどさんが構えており、懐かしさを感じました。また、スタンドグラス・シャワー室完備の浴室や昔の



電話機などがあり、この時代の商人の暮らしぶりを感じることができました。

また、昼食は地元のご婦人たちが地産地消・全て手作りにこだわった日野の伝統料理を、庭園に面した客間で、総漆の祝い膳でいただきました。休館日にもかかわらず、ご対応いただき、ありがとうございました。



・日野記念病院にて研修

午後からの最初の研修先として、日野記念病院を訪問しました。日野記念病院は日野町では唯一の病院で、医療法人社団昂会の湖東記念病院、能登川病院のそれぞれの病院が持つ特色を共有化し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに医療を通して貢献されています。

研修に際し、仲院長から病院の概要や特色についてお話しいただいた後、本学医学科卒業生の岡安公美子先生よりご自身の病気のことも踏まえ自己紹介していただき、耳鼻咽喉科の専門医として地域医療に貢献されている喜びをお話いただきました。また、西山看護部長より看護業務についてお話いただきました。その後、仲院長の案内で施設の見学をさせていただきました。



・東近江総合医療センターにて研修

「滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点」として位置づけられている国立病院機構東近江総合医療センターを訪問しました。東近江総合医療センターは東近江圏域で地域に根ざした中核病院として信頼される病院を目指し、「良い医療、信頼される医療、高度な医療」を掲げ、地域医療に貢献されています。

研修に際し、目片副院長から病院の概要や特色についてお話しいただきました。

その後、3班に分かれて産科や結核病床を有する特徴的な病棟、最新設備を備えた内視鏡室、リハビリテーション科の機能訓練室等を順番に案内していただき、病院内の施設見学を行うとともに、本学卒業生の中島医師や武久看護師等による指導のもと、スキルズラボに設置されている診療系シミュレーター、看護系シミュレーターを用いた院内体験をさせていただきました。

最後に行われた質疑応答では、退院カンファレンスにも開業医や地域ケアの方と一緒に話をしている等、具体的に地域医療連携の様子を説明していただきました。



・交流会

夕方は、宿泊先のクレフィール湖東において交流会を開催しました。

交流会第1部では、小椋正清東近江市長からご挨拶いただきました。



続いて、永源寺診療所の花戸貴司所長より「三方よし研究会」についてご紹介をいただき、三方よし研究会の小梶猛副会長、NPO法人加楽の楠神渉理事長より、それぞれご講演いただきました。



交流会2部では、訪問先の関係者の方々や行政の方々にご参加いただき学生と交流され、貴重な意見交換、懇談の場となりました。特に、今回訪問させていただいた東近江市、日野町において医療従事者としてご活躍中の諸先輩方から、立派な医療人となつていただきたいと参加した学生たちへエールをたくさん送っていただきました。また、東近江市からは、今秋収穫されたばかりの梨を学生たちに食べてほしいとお土産をいただきました。





【2日目】

・百済寺拝観

宿泊研修2日目は、宿泊先のクレフィール湖東を出発し、湖東三山の一つである百済寺を訪問しました。あいにくの雨でしたが、東近江市役所の方のガイドにより百済寺の歴史を感じることができました。



・あいとうふくしモールの見学

引き続き東近江市役所の方に案内していただき、研修2日目の最初の研修先として東近江市の愛東地域にあるあいとうふくしモールを見学しました。あいとうふくしモールには、高齢者や知的障がい者等の働く「ならではの働き応援拠点施設」、介護を必要とする方々とその家族の暮らしを応援する「地域での安心して暮らしていくための応援拠点施設」、食を支える「福祉支援型農家レストラン」の3つの施設が併設されていました。拡大福祉モールとして全国から多くの見学者が訪れているようで、当日はあいとうふくしモール運営委員会事務局の方から事業開始に至る経緯や運営方法等について説明いただきました。



・永源寺診療所にて研修

永源寺東部出張診療所を併設する道の駅奥永源寺溪流の里に立ち寄った後、日登美山荘で郷土料理をいただき、午後からは二つ目の研修施設である永源寺診療所を訪問しました。東部出張診療所と永源寺診療所を拠点として地域医療に尽力されている自治医科大学出身の花戸先生は、本事業の里親でもあり、全国から注目されている永源寺でのチーム医療について詳しく説明していただき、参加した学生たちから熱心に多くの質問がありました。

また、猛暑と悪天候により当日急に体調が悪くなっ

てしまった学生を救急で診てくださり、速やかな対応に診療所ならではの温かさを感じることができました。花戸先生ありがとうございました。



・近江温泉病院にて研修

宿泊研修最後の研修先として、近江温泉病院を訪問しました。近江温泉病院は、里親学生支援事業としては初めて訪問させていただき、療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、認知症病棟を有し、主に急性期治療を終えた患者さんに対し近隣の病院と連携して地域医療に貢献されています。

始めに小山院長から病院の概要や特色についてご説明いただき、その後、赤松看護師長と板谷精神保健福祉士の案内により回復期リハビリテーション病棟と認知症疾患医療センターを見学させていただきました。



今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい東近江地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

(この研修は、NPO滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。)

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第1学年 丸岡 里菜

医学概論で話を聞いた永源寺診療所を訪問できること、私が興味を持っている地域医療がどのようなものか実際に見れるといることもあり、この宿泊研修に参加させて貰いました。

日野記念病院、東近江総合医療センター、永源寺診療所、近江温泉病院とそれぞれ役割の異なる病院を訪問し、話を聞き、その役割分担、地域への貢献の仕方を学ぶことが出来ました。特に昂会の3つの病院で1つの総合病院であるということが印象に残っています。

私はまだ1回生なのでまだまだ先のことになりますが、今回東近江の歴史と自然を巡り、郷土料理を振舞ってもらい、地域の人のあたたかさに触れ、滋賀で働くことも良いなと思いました。またこれだけ地域の人に期待されていることも感じ、これから頑張っていくつもりです。

滋賀医科大学 医学科第3学年 福村 真優

他の参加した皆さんが、病院や診療所、施設の見学について書いてくださると思うので、私は美味しかった食べ物TOP3について書かせていただこうと思います。あくまでも個人的な意見で、私の中ではこの3つが同立1位です。

近江日野商人ふるさと館旧山中正吉邸でいただいた、日野の郷土料理。こだわりのガラス越しに美しい庭園を眺めながらいただきました。質と量、どちらも120%の贅沢な昼食でしたが、特に気に入ったものは鯛そうめんです。お出汁が甘く、鯛にも染み込んでいて優しい味でした。水出しの日野茶もとても美味しく、私たちは何度もおかわりをお願いしてしまうほどでした。

日野記念病院でいただいたブルーベリー大福。院長先生によると、いちご大福が美味しい和菓子屋さんが病院の近くにあり、今回は季節柄ブルーベリーになったということでした。ひんやり柔らかいクリームチーズにブルーベリーが包まれている大福はとっても美味しかったです。いちご大福も食べてみたいです。

永源寺の山中にある日登美山荘でいただいた中で一番お気に入りのイワナの塩焼き。おかみさんが、私は頭から食べます、とおっしゃっていたので、頭から食べてみたのですが、まさにパリッじゅわつとして、ペロリと食べてしまいました。

2日間通して、地元で採れた食材を使って作られているものをたくさん食べさせていただきました。ここに書ききれなかったものがたくさんあります。ぜひまた食べたいです。最後になりましたが、作ってくださった方々、用意をしてくださった方々、色々とお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第3学年 清原 華也

私は将来地域医療に従事する医師になりたいと考えています。大学入学後からずっとこの里親研修旅行に参加させて頂いており、たくさんの病院見学に行かせて頂きました。その中で様々な形の地域医療があるのだということを感じています。私が思い描いている地域医療とは、地域の人々が一体となって生活を支え合い、医師は人々が健康な生活を送るためのささやかなお手伝いをさせてもらうというものです。病院に来れる人だけを対象とした医療ではなく、病院に来ることのできない人や病院と関わりの薄い人々の健康を支えていきたいと思っています。しかし、健康診断や健康に関する講演をしたりしても、結局は病院に来れる人々や健康にかなり関心のある人々にしか提供できていないのではないかと思います。そこで、今回は病院に来てくれない、来れない人にどうやってアプローチしていけば良いのだろうかという疑問をテーマに参加しました。その疑問の答えの一部は永源寺診療所の花戸先生のお話の中がありました。「自分自身が地域の一人となって医師としてというよりもその地域の住民として人々と関係を構築していくこと」この言葉を聞いて、私は自分がその地域の一人になるという認識が薄かったことに気づきました。「医師として」と気負う必要はなく、普通に地域の人々と「一人の人間として」関係を作っていけば良いのだと感じました。

地域医療というのは、簡単に真似できるものではなく、それぞれの地域で地域の人々の手で築いていくものであると思います。しかし、その根本にある思いは同じであり、その思いをこうやって学ばせて頂くことが大事であると考えています。これからもよろしくお願いします。

最後に、とても愛情のこもった美味しいごはんをありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第5学年 白井 鈴華

今回訪れた東近江医療圏は、私の地元・高島市からは琵琶湖を挟んで対角で、とくに行かない地域でした。しかし、実際に足を運ぶことで、より深く東近江を知ることができました。何より印象的だったのは、昼にいただいた郷土料理がとてもおいしかったことです。滋賀を離れ5年が経った私にとっては、知らなかった料理もある一方、懐かしい味もあり大変温かい気持ちになりました。

また、医療に関しては、地域医療から高度医療まで上手く役割分担を行い地域で完結させていました。それだけでなく、三方よし研究会やチーム永源寺のように、まちぐるみで暮らしを支えていました。この研修で、医療は人々の生活の上に成り立っていることを再認識しました。このように、大学病院での実習だけでは見えていなかった、人々の「暮らし」に気づくことができた、大変有意義な二日間となりました。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第3学年 雪上 晴加

今回の宿泊研修では、湖東地域（主に東近江市）を周らせていただきました。私自身が一年生のころに講義で来てくださった花戸先生にお話を伺えるということで、永源寺地区の地域医療について学ぶ絶好のチャンスということもあり、参加させていただきました。また、私自身湖南地域に住んでいるのですが、普段なかなか湖東地域に行く機会がなく、今回の研修はとても楽しみにしていました。

私は特に印象に残っている二点について話したいと思います。

一点目は、「永源寺地区は十年後の日本」という花戸先生の言葉です。滋賀県の中でも高齢化が進み、3人に1人が高齢者という永源寺地区ですが、私たちが医師になるころにはこのような光景が当たり前になるとおっしゃる先生の表情に、高齢化の波がすぐそこまで迫ってきていることを切に感じました。それと同時に、そういった高齢化の進んでいる永源寺地区で地域の方と力を合わせて医療を支えておられる様子は大変勉強になりました。一方で、医師が先生お一人であることから、先生の疲労が限界を超えてしまった際にこの地域の医療がストップしてしまうことへの危機感も感じ、地域医療の在り方について考える必要があると感じました。

二点目は、文化の薫りです。今回の研修では太郎坊宮、百済寺を巡り、近江日野ふるさと館の見学なども行いました。雄大な自然や寺社仏閣の深い歴史をお聞きしながら、湖東地域の美味を堪能させていただきました。湖東地域にこのような素晴らしい文化があることを知り、もっと多くの方にこの素晴らしさを知ってほしいと思いました。

里親宿泊研修ではその地域の方と直接お話しすることができ、とても勉強になります。滋賀県の良さに触れつつ、滋賀それぞれの地域の医療体制やかかえている問題などについてこれからも考えていきたいと思います。

滋賀医科大学 医学科第4学年 景山 裕介

将来、滋賀県で医療に関わってみたいと考えており、滋賀県のことをもっと知りたいと思い今回の宿泊研修に参加しました。

宿泊研修によって東近江市の医療や取り組みの一端を垣間見ることができました。研修参加前、医療現場といえば近隣の市中病院のような急性期を扱う病院をイメージとして持っていたのですが、今回の研修では急性期を扱う病院だけではなく、診療所や療養施設を持つ病院を見学することができ彼らの仕事や地域での役割を理解することができました。東近江市では病気を治療だけでなくその後の生活のケアも含めたサポートを様々な人や組織が取り組んでいることを教えてもらい、地域医療という言葉のもつ意味と実践を初めて理解することが出来たと思います。

今後も里親プログラムのイベントに参加し、滋賀県の医療や地域の特色の理解を深めていければと思います。

滋賀医科大学 医学科第6学年 人見 直樹

今回、最高学年ながら初めて里親研修に参加させていただきました。自分は滋賀出身ではないのですが、6年生になり卒後の臨床研修先の候補として県内各地の病院をいろいろと調べるようになりました。そうした中で自分の滋賀に対する無知さに気づき、もっと滋賀のことを知りたいという思いが強くなりこの企画に応募させていただきました。

実際に研修に参加してみて、東近江地域の歴史・文化／医療を学べたのは勿論のこと、出てくる食事が非常に豪華で美味しく、大変満足感・充実感を感じられるものでした。歴史・文化関係では、太郎坊・阿賀神社、旧山中正吉邸、百済寺などを訪れ、滋賀の自然の豊かさと歴史の深さを堪能させていただきました。医療関係では、東近江総合医療センターや日野記念病院、近江温泉病院など地域医療の中核を担う施設を複数訪問し、医療の現状について理解を深めることが出来ました。特に2日目に訪れた永源寺診療所では、熱意を持って医療に臨み地域住民を支えておられる所長さんの姿に感銘を受けました。宿泊先での夕食・交流会では、普段なかなか関わる機会のない地元の方々や先生方とお話しすることができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

いろいろな施設で活躍されている方々のお話を伺うことで、その地域が必要とする医療のあり方とはどのようなものなのか、またそれを実現するために自分は将来一体何ができるか、何をすべきなのか、ということを考えさせられる良い機会となりました。このような素晴らしい研修旅行を企画された方々及び、研修中お世話になった地域の皆様には感謝申し上げます。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 市成 笑葉

今回はじめて宿泊研修に参加させていただきました。私は大阪府出身で、滋賀医科大学に入学してからも家と学校の往復を繰り返すばかりでした。何かの縁で滋賀県の地をふむ機会をいただいているのに、これではもったいないと思い、研修に参加させていただこうと思いました。東近江市の中でも様々な形で東近江の魅力を見せていただき、研修に協力して頂いた方々の地元愛を感じました。ありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 佐野 彩花

今回の宿泊研修は病院ごとに様々な役割があることがよく分かりました。4月に入学し、まだ看護学生としても未熟な私でしたが、とても良い経験になったと思います。その病院の役割によって求められる看護師の役割も変わり、今求められている看護の姿の一端を見ることができたと思います。私はまだ、将来看護職としてどのように将来貢献していきたいかが定まっておらず、今回の研修がその決定材料となれば良いなと思い、参加させていただいています。今回の宿泊研修で学んだことを留め、活かしていこうと思います。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科第1学年 清水 希望

初めて里親研修に参加し、とても充実した2日間を過ごせました。今回は東近江の医療の実態、また歴史や自然について学びました。

1日目は日野記念病院と東近江総合医療センターへ研修させていただきました。日野記念病院は湖東記念病院と東近江市立能登川病院と連携して昂会という医療体制を結成しています。医療が届かない地域への医療の提供と3病院が連携することでより質の高い効率的な医療を目指して結成されたそうです。このような地域ならではの工夫された医療の形が見られ、勉強になりました。東近江総合医療センターではリアルな模型がたくさんあって、心拍の確認や蘇生の体験をさせていただきました。貴重な経験ができてよかったです。

2日目も地域医療ならではの医療体制について学びましたが特に印象的だったのは永源寺診療所での研修でした。所長の花戸先生は以前大学の講義にも来ていただいて、その時から診療所はどんな所にあるのか、診療所の中はどんなものがあるのかなど気になっていました。実際に診療所内を見学できましたし、先生の話もたくさん聞けてとても貴重な機会になりました。

研修させていただいた施設や病院、地域の方々本当にありがとうございました。参加してよかったです。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 安田 みゆ

里親宿泊研修では東近江市に行きました。病院見学などの研修だけでなく、太郎坊や百済寺の参拝などもしました。私が特に印象に残ったことが2つあります。1つ目は、医学概論で聞いた、滋賀医科大学出身の聴覚障害がある医師の話聞いたことと、四肢麻痺の医師を見かけたことです。2つ目は同じく医学概論の講義でお会いした花戸先生の診療所を見学したことです。講義の時よりも詳しいお話を聞くことが出来て、とても勉強になりました。ご飯も豪華なものばかりで美味しかったです。また参加したいと思います。

滋賀医科大学 看護学科第2学年 池田 はるか

今回の里親実習では湖東地域の医療について学びました。なかでも一日目夜の三方よし学会についての話が一番興味深かったです。さまざまな医療職が集まりそれぞれの立場から意見を交わすことで、新たな発見があったり、解決策が見つかる等興味深い活動だなと思いました。

永源寺診療所については一年生のときの医学概論の講義を受けたことが印象的で、花戸先生の本も読んでいました。地域まるごとケアについても伺うことができ理解が深まりました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 宮嶋 優衣

私は滋賀県出身でありながら滋賀県の医療の体制を十分に把握していなかったため、この宿泊研修を通して少しでも学ぶことができれば、と考え参加しました。今回は東近江市の地域を支えるいくつかの病院を見学させていただき、大学病院とは違った役割や長所をもった医療を展開なさっている現状を直に見ることができました。また、多くの病院で大切になさっていた、「患者さんの身近に医療があるべきだ」という考え方は私が将来、医療に携わっていく姿勢としても大切にしていこうと思いました。この2日間、学びの多いものになりました、ありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第2学年 上田 歩里

研修では日野記念病院、東近江総合医療センター、近江温泉病院の三病院を見学させていただきました。東近江市長がおっしゃっていた「地域で総合病院をつくる」という言葉の通り、それぞれの病院に特徴がありました。永源寺診療所の見学では、昨年の講義で花戸先生の講義を受けていましたが、実際に訪問させていただくことで、周囲の環境やどんな場所に位置しているのか等を知ることができました。

交流会での講演では、三方よし研究会のお話を聴きました。中でも三方よし研究会の流儀がとても印象に残っており、「どんなことがあっても時間厳守」「できることから始めよう、走りながら考えよう」「良いと思うことは直ぐに実習う」など、長く続けるための工夫がなされていました。また、多職種や地域住民も参加できるように、専門的になりすぎないようにしていることを聞き、地域づくりのために行っている取り組みは専門職どうしが専門的な会議をするのではなく、地域で暮らしている当事者である住民の声を聴くことが大切だと感じました。

滋賀医科大学 看護学科第2学年 大谷 かのん

今回初めて里親研修に参加させていただき、東近江市や日野町などの地域の伝統や文化、医療について学ぶことができました。自分の身近な地域であるのにほとんど何も知らないことに気づかされました。歴史があり、文化があり、とても良い地域だと感じました。ほかの地域にもたくさん良いところがあると思うので、もっと滋賀県内の様々な地域のことを知りたいと感じました。医療においては田舎であり、高齢者が多い地域で、連携をとったり、工夫したりと様々なことが考えられて成り立っているのだと知りました。今回の里親研修で私は滋賀県のことをほとんど何も知らないと感じたので、これからもっと学んでいきたいです。

滋賀医科大学 看護学科第2学年 谷口 涼音

今回の宿泊研修では、時代に合わせて病院や診療所の役割が変化してきていることや各病院の得意分野を活かして地域全体で連携しあいながら医療を行っていることなどを教えていただきました。また、今回、私自身が急に体調不良となり診療所のお世話になり、いつでも頼れる地域に密着した医療機関の重要性を痛感しました。今回の経験を通してやはり自分は地域医療に携わりたいのだという気持ちが改めて強くなりました。私は、今回で2回目の参加となりますが、どちらも大変いろいろなことを学ばせていただきました。本当に参加してよかったですと思います。機会があればまた参加したいです。

三方よし研究会について

小 串 輝 男

NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」 副理事長

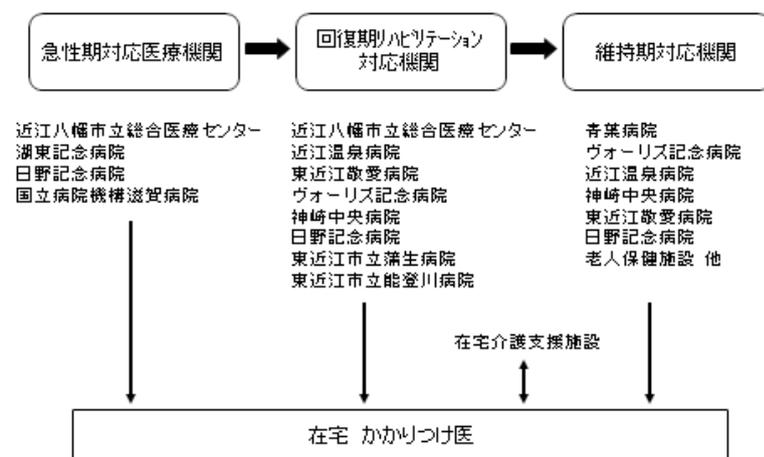
先般、市民向けに私たちのやっている行動を易しく説明した文章があるのでまずここにご紹介します。

『イヤだけど病気に罹ったとしたら皆様は、すぐ診てもらいたい、どこでも診てもらいたい、一番良い方法で治してもらいたい、早く自宅に戻りたいと思われるでしょう。全部よく理解できます。ところが今の日本の会計事情は火の車、そんなことができる訳がありません。じゃどうしたらいいでしょう。脳梗塞を例にお話しします。

片方の手足、顔半分の麻痺、しびれが起こる、呂律が回らない、ふらふらとして歩けないというような症状が現れたら脳梗塞が疑われます、すぐに救急車で入院しなければなりません。脳梗塞は時間との戦いです。早く治療を開始するほど結果は良くなります。ところが不幸にして入院が長引かなか退院できない方も出てまいります。そうするとどうなるでしょうか。すぐ病院が満床となり一刻を争う患者さんがすぐには入院できなくなってしまいます。これをどうやって解決するか。それが我々のやっている脳卒中クリティカルパス研究会すなわち三方よし研究会なのです。

解決方法は急性期、回復期、維持期の病院、施設を地域で役割分担を話し合い決定する（図1）。その代り患者さんは急性期で回復したら次の回復期の病院に十分な連絡帳「三方よし手帳」（図2）を持って

役割を分担した医療施設一覧



<図1>



患者情報と患者容態が詳しく記載されており 次の施設へ患者さんと一緒に動く手帳

<図2>

三方よし研究会（東近江地域医療連携ネットワーク研究会） ～「患者よし・機関よし・地域よし」の地域を目指して～

患者さん本位の視点に立った医療・保健・福祉・介護の切れ目のないサービスの提供体制を構築するため、関係機関の機能分担と連携のあり方を、毎月1回、圏域内の病院・診療所・介護施設・公共機関などの関係者が一堂に集まり「顔の見える関係づくり」を合言葉に行われています。

テーマに圏域内の脳卒中の連携事例や連携パスの共通様式の検討、その時々に応じた医療、介護に関することをあげ、毎回、100名近い方々が参加されています。

転院する。そこでさらに回復したらまた手帳を持って維持期の施設へ移動する。もっと回復したらまた手帳を持ってかかりつけ医に提示（図3）し、自宅に退院する。そうすることにより急性期、回復期、維持期の施設のベッドの空きが生じ、急性期の患者も受け入れ可能となるのです。どうです、良いアイデアでしょう。

しかしお互い利害関係がある、すんなりと図1が完成したわけではありません。毎月一回、医師、薬剤師、看護師、リハビリ療法士、地域連携室、行政等の関係者が100人以上集まり車座で顔と顔をお互い見ながら（図4）、粘り強く論議をして作成し、合意したものです。また施設を移るということは患者さんにとり不安なものです。それを取り除くためには施設同士の顔の見える関係があると「あーあの施設の患者さんか、この間も来ていただいた」と受け入れもスムーズになります。三方よし手帳はそのために考案されたものですし、三方よし研究会は患者さんの不安の除去と最も良い治療法すなわち自宅リハビリがどうしたら可能になるかを常に真剣に皆で考えている研究会なのです。」



三方よし手帳を持ってかかりつけ医に受診

<図3>



<図4>

地域自慢 ①

～甲賀市の玄関 貴生川駅周辺は自然がいっぱい～

私が住む甲賀市水口町貴生川地区は、草津駅からのどかな田園風景を見ながらJR草津線に乗車すること約30分の貴生川駅の周辺です。この地域の自慢は豊かな自然と、2つの鉄道路線、そしてこの地域には医療機関が多いことです。

貴生川駅は、信楽高原鉄道、近江鉄道への乗継駅です。というと、活気のあるターミナル駅を想像されることと思いますが、駅前には殺風景で、ちょっと行くと目の前をそまがわが流れ、周りは山と丘陵に囲まれた自然豊かなところです。

この駅は鉄道ファンの方には魅力ある所かもしれません。春や秋の行楽シーズンには、カメラで電車を撮影されている方をよく見かけます。



貴生川駅

信楽高原鉄道は、旧国鉄信楽線が昭和62年から第3セクター鉄道となったもので、今年で25年を迎えます。貴生川駅から信楽駅を結ぶ延長14.7kmの鉄道で、昔は信楽焼きの重い陶器の出荷に、今は地域住民の足として重宝されています。

この鉄道の魅力は、力強く信楽高原へと上っていく列車の車窓から見える、春の新緑・秋の紅葉といった飾り気のない自然です。25年目を記念し、信楽焼きの狸をイメージし車両に描かれている絵柄が、かわいくイメージチェンジしました。



信楽高原鉄道

近江鉄道は、明治26年に地元有志により会社が設立され、明治31年に彦根～愛知川間(12.1km)を開業以来、愛知川～八日市間(7.4km)、明治33年に八日市～日野間(12.5km)、日野～貴生川間(9.9km)、昭和6年に彦根～米原(5.8 km)、昭和19年には八日市鉄道株式会社を合併し、八日市～近江八幡間(8.7km)と徐々に走行距離が延び、地域住民による地域住民のための輸送機関として活躍してきました。近年は車の普及により利用者数は減少傾向ですが、甲賀・湖東地域の通学や、老人・子供には欠かせない交通手段です。



近江鉄道

土・日・祝日のみ使用できるSSフリー切符は1日乗り放題で550円です。貴生川駅から彦根駅まで乗車したことがありますが、格安でとても得した気持ちになりました。一度機会があればご乗車ください。のんびりとした1日を過ごせますよ。

貴生川駅周辺は田舎としてはめずらしく病院と薬局がたくさんあります。市立の診療所をはじめ、歯科医院が3院、内科医院1院、小児科医院1院、皮膚科医院1院、産婦人科医院1院、眼科医院1院、整形外科医院1院、以上10院と、4つの薬局が集まっているので、病気の際にはとても便利です。

来春の宿泊研修は甲賀地域です。この地域に興味を湧いた学生の皆さん、よかったら宿泊研修で来てくださいね。



そまがわ 春の杣川沿い



文：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
正会員 甲賀市水口町 在住
中森 愛子

クラウドファンディング

将来の滋賀県の医療をささえる「医療人」を応援してください!

滋賀県の医療を支えてくれる医療人材を育成していこう!

という思いを持つ人たち・団体が集まり、ここ滋賀県で活動をはじめて10年が経とうとしています。

わたしたちのNPOは、先行して滋賀医科大学で始まった「地域里親学生支援事業」とタッグを組んで、医師の卵や看護師の卵を応援しています。「地域里親学生支援事業」とは、地域で活躍している医師や看護師が「里親」になって、滋賀県に関心のある医学生や看護学生を「里子」として支援する、全国的にも例の無い取り組みです。「里子」登録した学生たちが数年前から卒業し始め、それまでに比べて卒業後県内で活動する卒業生が増えつつあります。

今回プロジェクトを立ち上げた理由は、滋賀に愛着を持ち、滋賀県内で医療に携わる医師や看護師をみなさんといっしょに育てていきたい、もっと多くの地域の人たちに応援していただきたい、と考えたからです。

滋賀県は、大きな病院が集中する大津や草津の限られた地域では医療に困難を感じることはないかもしれませんが、全国的に見れば医療資源の乏しい県です。

2016年に厚生労働省が行った調査では、滋賀県の人口10万当たりの医師数は231人で、全国34位です。多くの地域では、数少ない医師や看護師が、一生懸命、地域の医療を守るために頑張っています。滋賀医科大学には県内唯一の医学部がありますが、学生の多数は県外出身者です。地域からの積極的な働きかけがなければ、卒業後に親元に帰ったり、都市部に流出することがおきます。この現象は、全国の地方大学で共通しています。

医師や看護師が地域で頑張れるのは、「人」と「人」のつながりや、地域の魅力を知っているからです。

医師や看護師が、困難な条件の中でも頑張れるのはどうしてだと思いますか。「給料が高いから」と思われるかもしれませんが、地方や過疎地の医療機関で頑張っている人たちの給料が特別高いわけではありません。地域の人と人との繋がりや自然や豊かな地域文化の魅力を知ること、働きがいや生きがいを見つけて医師や看護師は頑張っているのです。私たちは、こうした地域での医療活動の魅力を学生時代に伝えることができれば、滋賀県の豊かな自然や文化を伝えることができれば、滋賀を好きな医師や看護師が「育つ」と考えました。

このような思いから、学生と地域の人たちが交流できる地域医療ワークショップを支援したり、医師不足で生じた地域医療の問題を市民の方々と一緒に考える市民講座などの活動を継続して行なっています。

又、医学生や看護学生が地域に出かけて、地域で医療や福祉を支えている医療機関や福祉施設を訪問し、地域の人や医師や看護師さんやスタッフの人たちと交流する宿泊研修に取り組みできました。宿泊研修は年2回実施し、滋賀県を7つのエリアに分け、毎回約20名程度の学生たちが1泊2日で研修を行いながら地域での交流を行います。これまでに15回開催し、のべ200人以上の学生たちが参加しました。また、滋賀県で生まれ育ち、県外の大学医学部や看護学部へ進学した学生の参加も受け入れており、滋賀県内の地域や医療に触れる機会にもなっており、研修先や就職先としてUターンして滋賀県内の病院を選択するきっかけともなります。

医療の担い手と地域住民をむすぶコミュニケーション

参加した学生たちの感想からは、これまで知らなかった滋賀県の魅力に気づいたり、地域のみなさんとのふれあいを通して、より滋賀県に愛着を持てる機会となっていることが感じられます。また、宿泊研修を行ったエリアで、地域の人たちのことを一生懸命考えながら医療に携わり、地域から感謝されている先輩たちの姿を見ることは、学生たちにとっては大きな刺激となっています。

地域のみなさんから「心優しく、ひとりひとりにちゃんと向き合って、自分たちの地域で末永く医療を行ってくれる医師、寄り添ってくれる看護師に来てもらいたい」という声を学生たちにいただきます。こうした声が、学生たちが滋賀県内で医療に携わる大きなモチベーションとなることは間違いありません。

こうした取り組みを、今回はクラウドファンディングを利用して、滋賀県民のみなさんに応援していただくと考えました。直接学生に声をかけることができないみなさんの思いを、クラウドファンディングを通じて目に見える形にすることができれば、より多くの医学生、看護学生に「滋賀県内で役立ちたい」という思いを育てることにつながると、信じています。皆さまのご協力をお願いいたします。

詳細はNPO法人滋賀医療人育成協力機構ホームページをご覧ください。

滋賀県医師キャリアサポートセンター

(滋賀県地域医療支援センター)

当センターは滋賀県健康医療福祉部 医療政策課と滋賀医科大学医学部附属病院に設置し、滋賀医科大学医学部附属病院には専任医師を配置しています。

先輩医師との懇談会

医師としてのキャリアアップや、仕事を続けていく上での色々な悩みなどを相談できる場として開催しています。自由参加ですので、ご興味のある方は、ぜひご参加下さい。

【2019年度(第1回)】

令和元年7月5日(金) 18:00~

講師：検査部 病理診断科医局長
松原 亜希子先生

テーマ：「こういう医者もおります～病院の片隅で病理医をやっています」



・病理医として生きる場合の一つのキャリアパスを見せて頂いたので、博士号取得や専門医取得の際の参考に出来そうと思った。
・病理医になる前に消化器の内視鏡が読める事が重要というのは意外でしたが、参考になりました。



学生の感想

【2019年度(第2回)】

令和元年10月8日(火) 18:00~

講師：精神科 医員(専攻医)
清水 芳樹先生

テーマ：「ルーツのある滋賀で精神科医を志す」



・現場の医師の方に精神科の現場を教えていただけて、今後のキャリアに対して、大変参考になりました。
・「正直であること」「まともに接すること」といったごく当たり前のような事の重要性を改めて認識させられました。



学生の感想

【2019年度(第3回)】

令和元年11月26日(火) 18:00~

講師：脳神経内科 医員(専攻医)
音羽 祐兵 先生

テーマ：「僕が医者になるまで、なってから(卒後3年目Ver.)」



・アメル脳症の症例がとても興味深かったです。
・血管内治療に興味があるので、それに関連したことも聞いて良かったです。
・希少疾患のお話や現実的な国試のお話など大変ためになりました。



学生の感想

【2019年度(第4回)】

令和2年1月23日(木) 17:30~

講師：母子診療科 医員(専攻医)
大橋 瑞紀先生

テーマ：「産婦人科医としての臨床・研究・出産・育児～環境が変わってもやりたいことを続けていくため」



・貴重なお話を聞いて、有意義な時間でした。
・研究、臨床のどちらも続けていきたいと思っているので、励みになりました。
・臨床医か研究医かという進路はまだ明確ではないので、先輩の医師がキャリアに対して、どのように考え、どういった選択をしたかという内容を聞いて良かったです。



学生の感想

お問い合わせ先

滋賀県医師キャリアサポートセンター

滋賀医科大学クオリティマネジメント課内(附属病院 3階)

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-3656 E-mail：ishicsc@helle.shiga-med.ac.jp

開催報告

1月9日開催の「FD研修会・意見交換会」

今回の研修会では、滋賀医科大学里親学生支援室長 埜田和史准教授から「里親学生支援のあゆみ」と題して、里親学生支援事業の発足時から今までの足跡について講演され、最後に、里親学生支援では「人を育てるための時間と、途切れることのない支援が必要」「地域社会との連携をより高めた学生支援が求められている」とのメッセージをいただきました。

埜田先生は、今年三月末で滋賀医科大学社会医学講座の職を定年退職されます。今後は滋賀医療人育成機構理事としてこの活動を応援していただくことになります。

この研修会は、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年1回この時期に開催されます。



開催報告

滋賀医科大学学園祭『若鮎祭』

滋賀医科大学学園祭（若鮎祭）が10月26日（土）～27日（日）に開催され、本機構では滋賀医科大学里親学生支援室との合同ブースを設けました。

ブースでは、機構の設立目的や寄附に関するご案内、活動紹介として「卒業後の自分を考える連続自主講座」等の掲示を行い、機構の取り組みを広くPRするよう努めました。

今年度より展示会場（福利棟1階）では、ステージが設置され、アカペラサークルなど音楽を聴きながら、展示を楽しめるようになり、さわやかな秋晴れの中、たくさんの方にご来場いただきました。



開催報告

第15回『卒業後の自分を考える連続自主講座』 『第5回世界に羽ばたく医師シリーズ』を開催しました。

2019年12月1日（日）滋賀医科大学構内にて、臨床留学のバイブル的存在である『海外医学留学のすべて』（日本医事新報社）など多数出版されている島田悠一先生（コロンビア大学医学部循環器内科）をお招きし、特別講演を行いました。米国医学の現状や日米の研修制度の違い、医師の働き方についてご講演いただき、英語での医療面接実習を行っていただきました。滋賀医科大学のみならず、各地の大学から22名の参加があり、大変盛り上がりしました。



入 会 ・ ご 寄 附 の ご 案 内

1年間の活動を実施していくための必要経費は年間550万円程度が必要ですが、この経費を皆様からいただいた会費とご寄附 並びに「地域医療を担う医師等育成事業補助金」で賄わせていただいています。

出費がかさむ折とは存じますが「地域の医療を担う医学生・看護学生の育成支援」へのご支援をいただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会 費	入会金 (初年度のみ)
正 会 員	個 人	年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団 体	年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上	

ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除（税制控除）】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。

なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。



編集後記



令和2年を迎え、冬とは思えないような暖かな日々は過ごしやすい反面、「これが温暖化現象」と考えるともう少し寒くてもいいよ。とってしまいます。

この春の宿泊研修では、甲賀市・湖南市を訪問する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、夏に延期することとなりました。病院関係者の方々や地域の皆様どうぞよろしくお願いいたします。オリンピックや、観光国日本のためにも早く沈静して欲しいですね。

滋賀県の医療を支えてくれる医療人材を育成していこう！との思いで、活動をはじめて早10年が経とうとしています滋賀医療人育成機構の活動に、多くの県民の皆様からご賛同と応援をいただき有難うございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「める」vol.17

発行：2020年3月
編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL：077-548-2802 FAX：077-548-2803
Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
URL：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/